

2026年3月期 第1四半期決算説明会資料

2025年8月5日
株式会社ニチレイ

(1) 第1四半期の総括

- ・売上高はグループ全体では前期並み
- ・営業利益は、加工食品事業の減益が響き、グループ全体でも減益

(2) 通期計画

- ・2025年5月発表の期初計画を据え置き
- ・第1四半期は出遅れたが、第2四半期以降収益改善に取り組む
- ・国内では原材料の想定以上のコストアップ、米国ではアジアンフーズ市場環境の悪化など、事業リスクが顕在化

第1四半期決算の概要をご説明します。

まず、第1四半期の総括です。

売上高は、セグメントごとにバラツキはありますが、グループ全体では前期並みとなりました。
営業利益は、加工食品事業の減益が響き、グループ全体で減益となりました。

通期計画については、5月に発表した期初計画から変更はありません。

第1四半期は減益スタートと出遅れており、第2四半期以降で収益改善に取り組んでまいります。
国内外でインフレが継続するなか、外部環境は不安定で厳しい状況が続くと見ております。
国内では、原材料の想定以上のコストアップ、米国ではアジアンフーズ市場環境の悪化など、
事業リスクが顕在化しておりますので、今後の動向を注視し、対応してまいります。

- 2026年3月期 第1四半期実績（P.3～9）
- 通期計画（P.10～17）
- Appendix（P.18～26）

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

1 第1四半期実績

連結業績実績

おいしい瞬間を届けたい



- 低温物流事業などは増益となったが、加工食品事業の減益が響きグループ全体では9億円減益

(単位: 億円)

		第1四半期				
		実績	前期比		通期計画 に対する 進捗率	営業利益率
			増減	率		
食品		1,038	△44	△4%	25%	
	加工食品	826	47	6%	25%	
	水産	105	△22	△17%	26%	
	畜産	129	△57	△31%	28%	
	消去額	△21	△11	—	—	
	低温物流	699	40	6%	24%	
	不動産	13	1	7%	26%	
	その他	13	1	6%	18%	
	調整額	△54	△2	—	—	
売上高合計		1,708	△4	△0%	24%	
(海外売上高合計)		413	19	5%	24%	
食品		48	△14	△23%	20%	4.6%
	加工食品	43	△15	△26%	19%	5.2%
	水産	3	2	791%	27%	2.6%
	畜産	2	△1	△40%	42%	1.6%
	消去額	△0	△0	—	—	—
	低温物流	41	7	20%	21%	5.8%
	不動産	5	1	25%	29%	41.0%
	その他	1	△0	△17%	8%	6.8%
	調整額	△7	△2	—	—	—
営業利益合計		87	△9	△9%	19%	5.1%
経常利益		92	△11	△11%	20%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益		56	△8	△12%	19%	

【売上高】

水産・畜産事業では構造改革の継続により減収となるが、主力の加工食品事業と低温物流事業が伸長し、グループ全体では前期並み

【営業利益】

加工食品事業の為替影響を含む原材料・仕入コスト上昇の影響などにより減益

為替レート	26/3 1Q	25/3 1Q
米ドル/円	152.61	148.60
ユーロ/円	160.50	161.30
パーツ/円	4.50	4.17

(注) 1月～3月までの期中平均で算出

(単位: 億円)

減価償却方法の 変更等に伴う影響額	26/3 1Q
食品事業	3
低温物流事業	6
その他	0
合計	9

© Nishirei Corporation. All rights reserved.

4

第1四半期の連結業績実績です。

売上高は1,708億円で、主力の加工食品事業・低温物流事業は伸長しましたが、水産・畜産事業は構造改革を継続しており、グループ全体では前期並みとなりました。

営業利益は、低温物流事業は増益でしたが、加工食品事業では原材料コスト増などに対して増収効果等を十分にせず減益となり、グループ全体では87億円、前期比マイナス9億円、9%の減益となりました。

加工食品事業

おいしい瞬間を届けたい



● 為替影響を含む原材料・仕入コストアップを価格改定効果などで吸収しきれず15億円減益

(単位：億円)

		実績	第1四半期		通期計画 に対する 進捗率	営業 利益率	
			前期比				
			増減	率			
加工食品	売上高合計	826	47	6%	25%		
	国内	635	36	6%	25%		
	家庭用調理品	236	9	4%	24%		
	業務用調理品	296	26	9%	26%		
	農産加工品	54	△10	△15%	21%		
	その他	49	11	28%	36%		
	海外	278	15	6%	24%		
	調整額	△88	△4	—	—		
	営業利益合計	43	△15	△26%	19%		5.2%
	国内	24	△16	△40%	15%		3.8%
海外	18	△1	△6%	31%	6.6%		
調整額	1	3	—	—	—		

増収効果の内訳	第1四半期		
	増収率	単価	数量
家庭用調理品	4%	2%	2%
業務用調理品	9%	1%	8%

【国内】

《売上高》

(家庭用調理品)

- ・ワンプレートや今川焼などのパーソナルユース商品の販売数量伸長により増収

(業務用調理品)

- ・チキン加工品や米飯類の拡販により増収

《営業利益》

- ・価格改定効果の発現時期の遅れや、原材料・仕入コストの上昇、固定費の増加なども重なり16億円減益

【海外】

《売上高》

- ・北米事業では、前期に投入したラテンブランドの継続効果などが増収に寄与
- ・GFPTニチレイ社（タイ）は、欧州向けの加工品販売の拡大により増収

《営業利益》

- ・北米事業における販促費の増加により減益

続いて、セグメント別の状況をご説明します。加工食品事業です。

加工食品セグメント全体の売上高は826億円で、前期比プラス47億円、6%の増収となりました。営業利益は、43億円で前期比マイナス15億円、26%の減益となりました。

まずは、国内事業についてです。

家庭用調理品の売上高は、236億円で、前期比プラス9億円、4%の増収となりました。主にワンプレートや今川焼などのパーソナルユース商品の販売数量が伸長しました。

業務用調理品の売上高は296億円で、前期比プラス26億円、9%の増収となりました。主にチキン加工品や米飯類の拡販が寄与しました。

農産加工品の売上高は54億円で、前期比マイナス10億円、15%の減収となりました。生鮮野菜相場の下落を受け、代替品となる冷凍野菜の需要が低迷したことや、前期に発生した国内外での天候不順によるサプライヤーからの供給制約が継続したことなどによります。

国内の営業利益は、価格改定効果の発現時期の遅れや、原材料・仕入れコストの上昇、固定費の増加なども重なり、24億円、前期比マイナス16億円、40%の減益となりました。

続いて海外事業についてです。

売上高は278億円で、前期比プラス15億円、6%の増収となりました。北米事業ならびにタイのGFPTニチレイ社がそれぞれ増収に寄与しました。

営業利益は18億円で、前期比マイナス1億円、6%の減益となりました。主な要因は、北米事業における販促費の増加になります。

海外売上高実績と計画

(単位: 億円)

		2026年3月期					
		第1四半期			通期		
		実績	増減	率	計画	増減	率
売上高	北米	105	8	8%	459	84	23%
	GFPTニチレイ	70	6	9%	219	△31	△12%
	その他	15	△2	△13%	62	△1	△1%
	合計	190	11	6%	740	53	8%

※北米にはイノバジアン・タイジーン社&ニチレイサクラメントフーズ社 (ICE & NISA) の他、

北米で展開する全ての食品事業の数字を含める

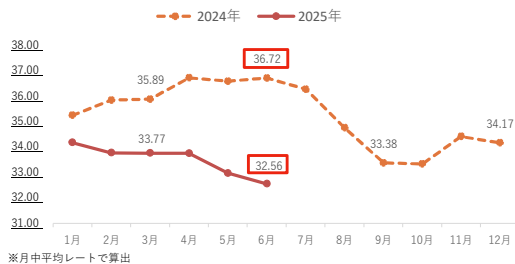
※本表の数字は地域開消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高・営業利益」で開示する数字と異なる

【ICE + NISA】売上高・営業利益

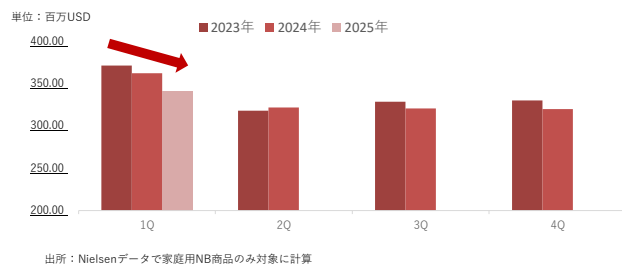
		2026年3月期					
		第1四半期			通期		
		実績	増減	率	計画	増減	率
売上高	連結通貨 (億円)	104	7	7%	416	43	12%
	現地通貨 (百万USD)	68	3	4%	277	31	13%
営業利益	連結通貨 (億円)	4	△2	△30%	22	7	50%
	現地通貨 (百万USD)	2.5	△1.2	△32%	14.3	4.9	51%
営業利益率 (連結通貨)		3.7%			5.2%		
為替レート (米ドル/円)		152.61			150.00		

※本表の数字は地域開消去後の数字となり「エリア・セグメント別売上高/国内外別営業利益」で開示する数字と異なる

【タイ】参考情報: ドルパーツの推移



【北米】参考情報: 冷凍アジアフーズ市場規模推移



続いて、海外売上高について補足説明です。

左上の表をご覧ください。

タイのGFPTニチレイ社では、欧州向けの加工品の販売数量が増加し、売上高は70億円、前期比プラス6億円、9%の増収となりました。

この会社は、ドル建て輸出が多く、ドル・パーツの為替レートの影響を受けますが、4月以降は前期に比べドル安パーツ高で推移しています。

また、足元ではタイ・カンボジア国境紛争による生産面へのリスクが出てきています。GFPTニチレイ社ではカンボジアからのワーカーが数多く働いておりますので今後の影響

注視する必要があると考えています。

次に、右上の表をご覧ください。

北米事業の第1四半期の実績です。

売上高は104億円、前期比プラス7億円、7%増収、営業利益は4億円、前期比マイナス2億円、30%減益となりました。

主に昨年3月から順次導入が始まったラテンブランドが増収に寄与した一方で、利益面で同ブランドの導入時に必要な棚代である販促費が継続して発生したことで減益となりました。

ここで、家庭用アジアフーズ市場の動向について少し触れておきます。

右下のグラフをご覧ください。

2023年から2025年の3か年の市場規模を記載しておりますが、前四半期に引き続き、第1四半期も前年を下回る状況となり、厳しい状況が続いております。

第2四半期以降も家庭用アジアフーズ市場はインフレの影響で低迷が見込まれますが、ラテンブランドの販促費の影響が一巡していくことや、業務用商品の拡販や販促費抑制などを通じて収益改善に努めていきます。

(単位: 億円)

主な内容

	第1四半期 実績
前期 営業利益	58
増益要因	10
増収効果 (※1)	2
価格改定効果	7
海外関係会社の業績影響額 (※2)	2
生産性改善	1
減価償却費の増減	△1
償却方法の変更	3
その他	△4
減益要因	△25
為替影響による原材料・仕入コストの増減	△11
原材料・仕入コストの増減 (為替影響除く)	△12
物流コストの増減	△1
動力燃料コストの増減	△1
当期 営業利益	43

(※1)収益性重視の施策の実行による利益効果も含む

(※2)棚卸未実現利益の調整を含む

- ・ 増収効果
スナック類は伸長
農産加工品の販売数量は大幅減少
- ・ 価格改定効果
2025年2月実施の米飯類の価格改定遅れ
- ・ その他
固定費の増加
- ・ 原材料・仕入コストの増減 (為替影響除く)
主に米・卵・鶏肉類の調達価格が高騰

第1四半期の営業利益の増減要因となります。

赤枠でお示ししている通り、為替影響を含む原材料・仕入コストの増加額を、増収効果や価格改定効果で十分に吸収できていないため、第1四半期は減益スタートとなっております。

増収効果では、スナック類が伸長しましたが、第1四半期において生鮮野菜の相場が低下したことによって農産品の数量が伸び悩み、効果は限定的なものに留まりました。

また、価格改定効果では2月に実施した米飯類の改定が、想定していたスピードで進められず、第1四半期後半にずれ込んだことが大きな要因となっています。

足元では、猛暑の影響で農産品の価格が上がっており、価格改定が完了した米飯類の数量も回復してきていますので、第2四半期以降での回復を見込んでいます。

また、増減要因では、「その他」としてありますが、コンサル費用やテレビCMなどの一時的な固定費が発生したことも減益の要因となりました。

原材料・仕入コストでは、主に米・卵・鶏肉類の調達価格が高騰しております。特に卵・鶏肉は当初想定以上に上昇しており、これらについては現在対応策を検討しております。

- 水産は低収益商材の削減を進めつつ、高収益商材や認証品の販売拡大に注力し2億円増益
- 畜産は取り扱いカテゴリーの選択と集中による構造改革を優先し減収減益

(単位: 億円)

		第1四半期			
		実績	前期比		通期計画 に対する 進捗率
			増減	率	
水産	売上高	105	△22	△17%	26%
	営業利益	3	2	791%	27%
畜産	売上高	129	△57	△31%	28%
	営業利益	2	△1	△40%	42%

【水産】

《売上高》

- ・低収益商材の削減を計画的に進めたことにより17%減収

《営業利益》

- ・前期に収益性が低迷した魚卵の回復に加え、高収益商材やMSC・ASC認証品などの販売拡大により2億円増益

【畜産】

- ・国産品及び輸入冷凍品の低収益商材を大幅に削減し減収減益

次に水産・畜産事業です。

両事業とも、構造改革の継続により、売上高は減収となりました。

まず、水産事業です。

売上高は、低収益商材の削減を計画的に進めたことで105億円、前期比マイナス22億円、17%の減収となりました。

営業利益は、前期に収益性が低迷した魚卵が回復したことに加え、高収益商材やMSC・ASC認証品などの販売拡大により3億円、前期比プラス2億円の増益となりました。

次に畜産事業です。

売上高は、129億円、前期比マイナス57億円、31%の減収、営業利益は2億円、前期比マイナス1億円、40%の減益となりました。

国産品および輸入冷凍品における低収益商材の削減など、構造改革を優先して取り組んだ結果となります。

低温物流事業

おいしい瞬間を届けたい



● 国内事業が堅調に伸長し増収増益

(単位：億円)

		第1四半期					
		実績	前期比		通期計画 に対する 進捗率	営業 利益率	
			増減	率			
低温 物流	売上高合計	699	40	6%	24%		
	国内事業	488	21	5%	25%		
	保管	172	6	4%	25%		
	輸配送	90	4	4%	25%		
	リテール	158	8	5%	26%		
	3PL	67	4	6%	25%		
	海外事業	206	20	11%	23%		
	その他・共通	5	△1	△18%	9%		
	営業利益合計	41	7	20%	21%		5.8%
	国内事業	42	8	25%	24%		8.6%
海外事業	6	△0	△5%	14%	3.1%		
その他・共通	△7	△1	—	—	—		

【国内】

《売上高》

- ・ 冷凍食品物流プラットフォームやリテール事業における集荷拡大が順調に伸長したことにより5%増収

《営業利益》

- ・ 前期に比べ在庫が高水準で推移したことや、減価償却方法等の変更影響などにより8億円増益

【海外】

《売上高》

- ・ 前期に実施した、英国フォワーディング会社の買収効果やポーランドでの冷蔵倉庫の増設効果などが増収に寄与

《営業利益》

- ・ 英国での通関・保管などの港湾ビジネスが伸長したが、ポーランドでの新設倉庫の稼働遅れなどにより前期並み

続いて低温物流事業の第1四半期実績です。

全体の売上高は699億円で、前期比プラス40億円、6%の増収、営業利益は41億円で、前期比プラス7億円、20%の増益となりました。

国内事業では、冷凍食品物流プラットフォームやリテール事業における集荷拡大が順調に伸長したことにより、売上高は488億円、前期比プラス21億円、5%の増収となりました。

利益面では、前期に比べ在庫が高水準で推移したことや、償却方法等の変更影響などもあり、営業利益は42億円、前期比プラス8億円、25%の増益となりました。

海外事業は、前期に実施した、英国フォワーディング会社の買収効果やポーランドでの冷蔵倉庫の増設効果などにより、売上高は206億円、前期比プラス20億円、11%の増収となりました。

営業利益は、英国での通関・保管などの港湾ビジネスが伸長しましたが、ポーランドでの新設倉庫の稼働遅れなどにより、前期並みの6億円となりました。

2 通期計画

連結業績予想

おいしい瞬間を届けたい



● 売上高、営業利益ともに期初計画を据え置き

(単位: 億円)

	計画	通期		前回計画比		営業利益率
		増減	率	前回計画	増減	
食品	4,120	△219	△5%	4,120	—	
加工食品	3,295	179	6%	3,295	—	
水産	400	△187	△32%	400	—	
畜産	458	△216	△32%	458	—	
消去額	△33	5	—	△33	—	
低温物流	2,910	127	5%	2,910	—	
不動産	48	△4	△7%	48	—	
その他	72	7	11%	72	—	
調整額	△150	68	—	△150	—	
売上高合計	7,000	△21	△0%	7,000	—	
(海外売上高合計)	1,740	82	5%	1,740	—	
食品	242	29	14%	242	—	5.9%
加工食品	226	38	20%	226	—	6.9%
水産	10	△4	△29%	10	—	2.5%
畜産	5	△6	△54%	5	—	1.1%
消去額	0	0	—	0	—	—
低温物流	198	41	26%	198	—	6.8%
不動産	18	△1	△5%	18	—	37.5%
その他	11	0	1%	11	—	15.3%
調整額	△19	△2	—	△19	—	—
営業利益合計	450	67	17%	450	—	6.4%
経常利益	458	59	15%	458	—	
親会社株主に帰属する当期純利益	295	48	19%	295	—	
EPS (円)	117.7	20.4	21%	117.7	—	

【売上高】

主力事業で増収を見込むが、水産・畜産事業での構造改革の継続により全体では前期並みを想定

【営業利益】

主力事業の収益改善や減価償却方法の変更などにより67億円増益を見込む

【EPS】

EPSは前期比20円増の118円を見込む

為替レート	26/3		25/3 実績
	想定	前回想定 からの増減	
米ドル/円	150.00	—	151.57
ユーロ/円	160.00	—	163.94
パーツ/円	4.40	—	4.30

(注)25/3実績は1月～12月までの期中平均で算出

(単位: 億円)

減価償却方法の変更等に伴う影響額	26/3 見込
食品事業	16
低温物流事業	24
その他	1
合計	41

通期の連結業績予想についてです。

売上高は、加工食品と低温物流で増収を見込みますが、水産・畜産事業の構造改革により、7,000億円の計画です。

営業利益は、主力事業の収益改善や減価償却方法変更などにより、450億円を目指します。

5月に公表した計画値から変更していませんので、セグメント別の説明は割愛させていただきますが、資料は12ページ以降に掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

最後になりますが、特に加工食品事業においては、期初から、鶏肉や卵を中心に想定を超える原材料・仕入コストの上昇がみられる一方で、消費者は従来より価格に対して敏感になりはじめています。

足元で大きく変化する事業環境に対してスピード感を持って対応し、グループ一丸となって通期目標の達成に向けて尽力してまいります。

加工食品事業

おいしい瞬間を届けたい



- 国内での販売数量の拡大や価格改定の着実な実行により収益改善を目指す

(単位: 億円)

		通期					営業 利益率
		計画	前期比		前回計画比		
			増減	率	前回計画	増減	
加工食品	売上高合計	3,295	179	6%	3,295	—	
	国内	2,555	124	5%	2,555	—	
	家庭用調理品	1,002	67	7%	1,002	—	
	業務用調理品	1,159	59	5%	1,159	—	
	農産加工品	256	12	5%	256	—	
	その他	138	△12	△8%	138	—	
	海外	1,140	99	10%	1,140	—	
	調整額	△400	△44	—	△400	—	
	営業利益合計	226	38	20%	226	—	6.8%
	国内	166	41	33%	166	—	6.5%
海外	59	△7	△10%	59	—	5.2%	
調整額	1	4	—	1	—	—	

増収効果の内訳	通期計画		
	増収率	単価	数量
家庭用調理品	7%	3%	4%
業務用調理品	5%	2%	3%

【国内】

《売上高》

(家庭用調理品)

- ・主力カテゴリーを中心とした積極的なプロモーション展開の継続や、秋発売の新商品の拡販により増収を見込む

(業務用調理品)

- ・大手ユーザー向けの主力商品の拡販や、外食の業態別ニーズに対応した加工度の異なる商品を投入し新規開拓に注力

《営業利益》

- ・為替影響を含む原材料・仕入コスト増を価格改定効果や増収効果などで吸収し41億円の増益を見込む

【海外】

《売上高》

- ・北米事業ではアジアブランドの新商品の投入や業務用商品の販路拡大に注力

《営業利益》

- ・北米事業では増収効果や販促費などの抑制により増益を見込むが、タイのGFPTニチレイ社での輸出売上高の為替影響(ドル安バズ高)により全体では7億円の減益を見込む

(単位: 億円)

主な内容

	26/3		
	第1四半期 実績	通期計画	前回通期 計画比
前期 営業利益	58	188	—
増益要因	10	104	—
増収効果 (※1)	2	29	—
価格改定効果	7	60	—
海外関係会社の業績影響額 (※2)	2	△3	—
生産性改善	1	10	—
減価償却費の増減	△1	△12	—
償却方法の変更	3	15	—
その他	△4	5	—
減益要因	△25	△66	—
為替影響による原材料・仕入コストの増減	△11	△29	—
原材料・仕入コストの増減 (為替影響除く)	△12	△31	—
物流コストの増減	△1	△4	—
動力燃料コストの増減	△1	△2	—
当期 営業利益	43	226	—

- ・増収効果
販売数量の伸長や収益性重視の販売施策効果
- ・価格改定効果
前期実施の継続効果並びに2025年7月・8月実施の改定効果
- ・為替影響による原材料・仕入コストの増減
既に取得済みの包括為替予約レートの円安進行の影響
- ・原材料・仕入コストの増減 (為替影響除く)
主に米・卵・鶏肉類の調達価格が高騰

(※1)収益性重視の施策の実行による利益効果も含む
(※2)棚卸未実現利益の調整を含む

水産・畜産事業

おいしい瞬間を届けたい



- 水産、畜産ともに事業構造改革の継続により、通期計画の達成を目指す

(単位: 億円)

		通期					
		計画	前期比		前回計画比		営業 利益率
			増減	率	前回計画	増減	
水産	売上高	400	△187	△32%	400	—	
	営業利益	10	△4	△29%	10	—	2.5%
畜産	売上高	458	△216	△32%	458	—	
	営業利益	5	△6	△54%	5	—	1.1%

【水産】

《売上高》

- ・国内は低収益商材の削減を進める一方で、需要が拡大する海外販売を強化

《営業利益》

- ・高収益商材及びMSC・ASC認証品の取り扱い拡大などにより、10億円を見込む

【畜産】

《売上高》

- ・低収益商材の削減を継続する一方で、加工品や健康価値食肉など差別化商品の拡販を推進

《営業利益》

- ・価格改定に加え加工品や差別化商品の販売拡大により5億円を見込む

- 国内外で引き続き集荷拡大に努め、5%増収、40億円増益を見込む

(単位: 億円)

		通期					営業 利益率
		計画	前期比		前回計画比		
			増減	率	前回計画	増減	
低 温 物 流	売上高合計	2,910	127	5%	2,910	—	
	国内事業	1,941	38	2%	1,941	—	
	保管	688	12	2%	688	—	
	輸配送	362	11	3%	362	—	
	リテール	616	4	1%	616	—	
	3PL	275	11	4%	275	—	
	海外事業	913	81	10%	913	—	
	その他・共通	56	8	17%	56	—	
	営業利益合計	198	40	26%	198	—	6.8%
	国内事業	171	27	19%	171	—	8.8%
海外事業	45	11	34%	45	—	4.9%	
その他・共通	△18	2	—	△18	—	—	

【国内】

《売上高》

- ・ 冷凍食品物流プラットフォームの拡大やリテール事業での顧客基盤の拡充により2%増収を見込む

《営業利益》

- ・ 集荷拡大や業務効率化に加え、償却方法等の変更影響などにより27億円の増益を見込む

【海外】

《売上高》

- ・ 英国での保管を中心とした港湾ビジネスが堅調に推移するとともに、ポーランドなどの新增設拠点の稼働も増収に寄与

《営業利益》

- ・ 欧州での集荷拡大やCSR費用の反動減などにより、11億円の増益を見込む

海外売上高

(単位：億円)

		2026年3月期					
		第1四半期			通期		
		実績	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率
売上高	欧州	187	19	11%	813	64	9%
	東アジア	12	0	1%	63	6	10%
	東南アジア	7	0	5%	37	11	41%
	合計	206	19	10%	913	81	10%

欧州売上高

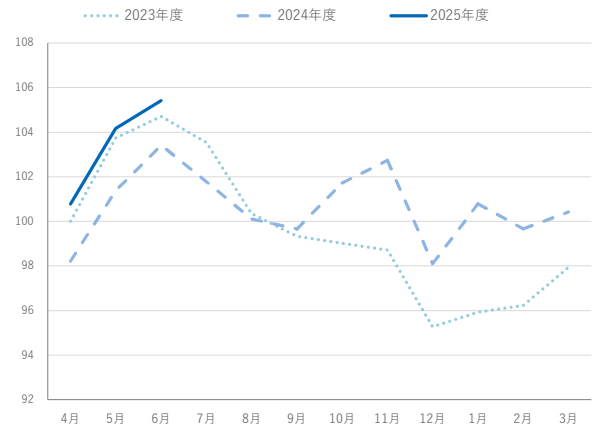
		2026年3月期					
		第1四半期			通期		
		実績	前期比		計画	前期比	
			増減	率		増減	率
連結通貨 (億円)	保管	79	11	16%	355	58	20%
	通関・ 輸配送	108	8	8%	458	6	1%
	合計	187	19	11%	813	64	9%
現地通貨 (百万 ユーロ)	保管	49	7	16%	222	41	23%
	通関・ 輸配送	67	6	9%	286	11	4%
	合計	117	12	12%	508	52	11%

営業利益の増減要因

	26/3		
	第1四半期 実績	通期計画	前回通期 計画比
前期 営業利益	34	157	—
増益要因	10	51	—
集荷増による業績影響額	1	3	—
業務効率化	0	2	—
適正料金収受などの施策効果	3	10	—
海外	△0	11	—
償却方法等の変更	6	24	—
その他	0	1	—
減益要因	△3	△10	—
エネルギーコストの増減	△1	△3	—
外部委託コスト増 (庸車・倉庫内作業含む)	△2	△7	—
当期 営業利益	41	198	—

当社12大都市在庫屯数推移

※2023年4月の在庫屯数を100とした場合の推移



3 Appendix

エリア・セグメント別売上高・営業利益

おいしい瞬間を届けたい



2026年3月期 第1四半期

※ () 内は前年同期間比、ptはポイント (単位：億円)

	売上高								営業利益							
	日本	海外合計						地域間 消去等	合計	日本	海外	地域間 消去等	合計	営業利益率		
		北米	欧州	東南 アジア	東 アジア	その他	日本							海外	合計	
食品	846	287	107	—	152	20	9	△95	1,038	28	19	1	48	3.3%	6.5%	4.6%
	(△52)	(15)	(8)	—	(11)	(△2)	(△1)	(△7)	(△44)	(△16)	(△1)	(3)	(△14)	(△1.6pt)	(△0.9pt)	(△1.2pt)
	635	278	107	—	150	12	9	△88	826	24	18	1	43	3.8%	6.6%	5.2%
	(36)	(15)	(8)	—	(11)	(△3)	(△1)	(△4)	(47)	(△16)	(△1)	(3)	(△15)	(△3.0pt)	(△0.9pt)	(△2.3pt)
	99	9	—	—	2	8	—	△3	105	2	0	0	3	2.3%	4.4%	2.6%
	(△24)	(△0)	(△1)	—	(0)	(0)	—	(2)	(△22)	(2)	(△0)	(0)	(2)	(2.4pt)	(△1.3pt)	(2.4pt)
	129	—	—	—	—	—	—	—	129	2	—	—	2	1.6%	—	1.6%
	(△57)	—	—	—	—	—	—	—	(△57)	(△1)	—	—	(△1)	(△0.2pt)	—	(△0.2pt)
	△17	—	—	—	—	—	—	△4	△21	△0	—	0	△0	—	—	—
	(△7)	—	—	—	—	—	—	(△4)	(△11)	(△0)	—	(0)	(△0)	—	—	—
低温物流	488	206	—	187	7	12	—	5	699	42	6	△7	41	8.6%	3.1%	5.8%
	(21)	(20)	—	(19)	(0)	(0)	—	(△1)	(40)	(8)	(△0)	(△1)	(7)	(1.4pt)	(△0.5pt)	(0.7pt)
不動産・ その他	25	1	1	—	—	—	—	△1	25	7	△1	△0	6	27.6%	—	23.7%
	(3)	(△1)	(△1)	—	—	—	—	(△0)	(2)	1	(△1)	(△0)	1	(2.7pt)	—	(2.0pt)
調整額	△54	△0	—	—	△0	△0	—	—	△54	△7	—	0	△7	—	—	—
	(△1)	(△0)	—	—	(△0)	(0)	—	—	(△2)	(△2)	—	(0)	(△2)	—	—	—
合計	1,304	494	108	187	158	32	9	△91	1,708	69	24	△7	87	5.3%	4.9%	5.1%
	(△29)	(33)	(6)	(19)	(11)	(△2)	(△1)	(△8)	(△4)	(△8)	(△2)	(2)	(△9)	(△0.5pt)	(△0.8pt)	(△0.5pt)

貸借対照表の増減要因

おいしい瞬間を届けたい



(単位: 億円)

	2025年3月期 期末	2026年3月期 第1四半期	増減	
資産の部				
流動資産	2,049	2,083	33	①
固定資産	2,943	2,943	0	
資産合計	4,992	5,026	34	
負債・純資産の部				
流動負債	1,291	1,352	61	②
固定負債	942	948	7	
負債合計	2,233	2,300	68	
純資産合計	2,760	2,726	△34	③
(うち自己資本)	2,600	2,569	△32	
有利子負債	1,063	1,118	55	
(うちリース債務除く)	927	984	57	

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減	
設備投資額	66	62	△4	④
(うちリース資産除く)	60	55	△6	
減価償却費	58	53	△5	
(うちリース資産除く)	50	44	△5	

【主な増減要因】

①商品及び製品 +12億円

前払費用 +27億円

②短期借入金 +30億円

コマーシャルペーパー +20億円

③為替換算調整勘定 ▲28億円

【主な実績】

④ナワナコン物流センター新設(タイ) 7億円

2026年3月期 年間業績・計画一覧

おいしい瞬間を届けたい



(単位: 億円)

	第1四半期			通期		
	実績	増減	前年比 率	計画	前年比 増減	
食品	1,038	△44	△4%	4,120	△219	△5%
加工食品	826	47	6%	3,295	179	6%
国内	635	36	6%	2,555	124	5%
家庭用調理品	236	9	4%	1,002	67	7%
業務用調理品	296	26	9%	1,159	59	5%
畜産加工品	54	△10	△15%	256	12	5%
その他	49	11	28%	138	△14	△9%
海外	278	15	6%	1,140	99	10%
調整額	△88	△4	—	△400	△44	—
水産	105	△22	△17%	400	△187	△32%
畜産	129	△57	△31%	458	△216	△32%
消去額	△21	△11	—	△33	5	—
低温物流	699	40	6%	2,910	127	5%
国内事業	488	21	5%	1,941	38	2%
保管	172	6	4%	688	12	2%
輸配送	90	4	4%	362	11	3%
リテール	158	8	5%	616	4	1%
3PL	67	4	6%	275	11	4%
海外事業	206	20	11%	913	81	10%
その他・共通	5	△1	△18%	56	8	17%
不動産	13	1	7%	48	△4	△7%
その他	13	1	6%	72	7	11%
調整額	△54	△2	—	△150	68	—
売上高合計	1,708	△4	△0%	7,000	△21	△0%
(海外売上高合計)	413	19	5%	1,740	82	5%
食品	48	△14	△23%	242	29	14%
加工食品	43	△15	△26%	226	38	20%
水産	3	2	791%	10	△4	△29%
畜産	2	△1	△40%	5	△6	△54%
消去額	△0	△0	—	0	0	—
低温物流	41	7	20%	198	41	26%
不動産	5	1	25%	18	△1	△5%
その他	1	△0	△17%	11	0	1%
調整額	△7	△2	—	△19	△2	—
営業利益合計	87	△9	△9%	450	67	17%
経常利益	92	△11	△11%	458	59	15%
親会社株主に帰属する四半期純利益ないし当期純利益	56	△8	△12%	295	48	19%

ROICの推移

おいしい瞬間を届けたい



	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3E
グループ全体 ROIC (%)	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.4	8.0
NOPAT率 (%)	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	4.1	3.5	3.9	3.9	4.4
使用資本回転率 (回)	2.2	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9	1.8
WACC (%)							4.0	4.0	4.0	4.5
加工食品										
簡易ROIC (%)	15.3	14.4	13.3	15.1	13.9	10.3	8.5	10.8	11.0	11.6
税引後営業利益率 (%)	4.7	4.6	4.5	4.9	5.3	4.0	3.5	4.1	4.2	4.7
主要使用資本回転率 (回)	3.3	3.2	3.0	3.1	2.6	2.6	2.4	2.6	2.7	2.5
低温物流										
簡易ROIC (%)	6.9	7.0	7.1	7.2	7.8	7.7	7.7	7.2	6.5	7.7
税引後営業利益率 (%)	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.5	4.3	4.2	3.9	4.7
主要使用資本回転率 (回)	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.7	1.7	1.6
水産										
簡易ROIC (%)	2.7	1.0	0.6	1.5	2.0	3.3	3.5	2.9	8.0	8.2
税引後営業利益率 (%)	0.8	0.3	0.2	0.5	0.6	1.0	1.0	0.7	1.7	1.8
主要使用資本回転率 (回)	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.7	4.4	4.8	4.6
畜産										
簡易ROIC (%)	29.4	16.3	16.8	13.6	21.5	20.2	13.8	12.4	21.9	8.3
税引後営業利益率 (%)	1.3	1.0	1.1	0.7	1.1	1.0	0.8	0.9	1.1	0.8
主要使用資本回転率 (回)	23.3	16.4	15.1	19.1	20.0	20.1	17.9	14.1	19.8	11.0
バイオサイエンス										
簡易ROIC (%)	9.5	9.4	2.4	△2.2	△3.2	△3.0	8.9	12.5	10.7	11.9
税引後営業利益率 (%)	11.1	11.4	4.5	△4.5	△6.6	△6.1	12.0	15.2	12.2	11.7
主要使用資本回転率 (回)	0.9	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9	1.0

注：簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本（営業資金+有形無形固定資産）

各中計期間の業績の推移

おいしい瞬間を届けたい



(単位: 億円)

	RISING 2015 (13-15年度)			POWER UP 2018 (16-18年度)			WeWill 2021 (19-21年度)			Compass Rose 2024 (22-24年度)			Compass×Growth 2027 (25-27年度)		
	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3	26/3E	27/3P	28/3P
食品												4,339	4,120	4,181	4,450
加工食品	1,807	1,939	1,992	2,050	2,207	2,266	2,348	2,255	2,442	2,757	2,909	3,116	3,295	3,430	3,650
水産	686	687	688	694	715	712	658	631	677	690	616	587	400	350	380
畜産	801	895	920	881	904	911	883	841	803	858	818	674	458	434	453
消去額												△38	△33	△33	△33
低温物流	1,684	1,783	1,849	1,869	1,951	2,010	2,065	2,123	2,245	2,442	2,574	2,783	2,910	2,994	3,120
不動産	50	47	46	46	49	48	50	46	43	45	45	52	48	49	50
その他	37	44	52	45	53	58	57	49	42	61	68	65	72	478	583
調整額	△191	△196	△194	△189	△199	△204	△212	△218	△226	△231	△228	△218	△150	△201	△202
売上高合計	4,874	5,200	5,354	5,397	5,680	5,801	5,849	5,728	6,027	6,622	6,801	7,021	7,000	7,500	8,000
食品												213	242	255	287
加工食品	34	54	80	139	146	146	167	172	142	140	174	188	226	239	263
水産	4	2	7	8	3	2	4	5	10	10	6	14	10	9	13
畜産	1	4	4	16	13	15	9	13	12	10	10	11	5	7	12
消去額												△0	0	0	0
低温物流	89	87	100	106	113	114	118	131	146	151	158	157	198	211	226
不動産	24	21	22	21	22	21	20	20	17	18	17	19	18	19	20
その他	4	6	9	6	8	3	△3	△3	△3	8	13	11	11	34	46
調整額	1	0	△5	△3	△5	△6	△6	△8	△9	△7	△9	△17	△19	△20	△19
営業利益合計	158	174	216	293	299	295	310	329	314	329	369	383	450	500	560
経常利益	144	169	214	291	307	299	318	335	317	334	383	399	458	512	571
親会社株主に帰属する当期純利益	89	95	135	188	191	199	196	212	234	216	245	247	295	340	380
総資産	3,185	3,420	3,385	3,462	3,673	3,773	3,900	4,057	4,276	4,573	4,852	4,992			
設備投資等（リース資産を含む）	240	242	162	139	250	241	273	378	279	304	313	345	465	396	410
ROIC（％）	4.2	4.3	5.9	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.4	8.0	8%以上	
自己資本比率（％）	41.9	43.0	44.4	46.0	44.3	46.9	47.3	50.1	49.4	49.1	52.2	52.1			
営業利益率（％）	3.1	3.3	4.0	5.4	5.3	5.1	5.3	5.8	5.2	5.0	5.4	5.5	6.4	6.7	7.0
ROE（自己資本利益率）（％）	6.9	6.8	9.1	12.1	11.9	11.7	10.9	10.9	11.3	9.9	10.3	9.6	10%以上		
1株当たり純利益（EPS）	31.1	33.3	47.2	67.6	71.1	74.8	73.6	79.6	88.4	83.6	95.9	97.3	117.7	135.7	151.7
1株当たり配当金（DPS）	10	10	12	14	15	16	21	25	25	26	37	46	下限47		
期末日現在株価（円）	436	674	916	1,377	1,470	1,364	1,528	1,425	1,185	1,342	2,057	1,778			

注：①設備投資等には無形固定資産を含む、②25/4/1付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したこと、比較のためEPS、DPS、期末日現在株価は株式分割後に換算した金額で表示（ただし16/3以前は株式合併前のため実額を表示）、③26/3からの食品事業セグメントの開示変更に当たり、25/3は適及修正後の数値を記載している

SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比

市場	25/3期 1 Q	25/3期 2 Q	25/3期 3 Q	25/3期 4 Q	25/3期累計	26/3期 1 Q
全体	103%	105%	105%	105%	105%	106%
畜肉フライ	96%	96%	99%	101%	98%	104%
ピラフご飯類	101%	107%	104%	106%	105%	116%
おにぎり	107%	113%	107%	110%	110%	105%
和風スナック	108%	111%	114%	112%	111%	109%
ハンバーグ	91%	98%	102%	100%	98%	99%

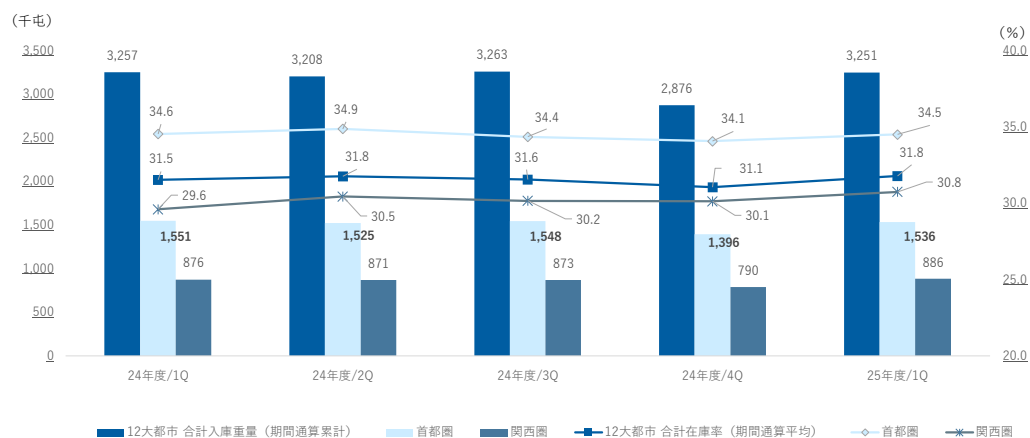
出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移（70代まで））。購入ルート＝生協店舗・店舗以外を含む。（宅配等含む）

当社の価格改定の【実施時期】と【改定効果の発現時期】

実施時期	改定対象	改定率 (当初計画)	2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期				2027年3月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2022年8月	家庭用	約8～20%																
2022年9月	業務用	約4～22%																
2023年2月	家庭用	約6～20%																
	業務用	約5%～25%																
2023年7月	業務用	約8～27%																
2024年3月	家庭用	約1%～6%																
2024年4月	業務用	約1%～6%																
2024年9月	農産加工品、家庭用	約3%～7%																
2024年10月	農産加工品、業務用	約5%～7%																
2025年2月	家庭用	約10%～30%																
	業務用	約5%～30%																
2025年7月	業務用	約3%～8%																
2025年8月	家庭用	約8%～13%																
2025年9月	家庭用	約10%																
2025年10月	業務用	約10%																
改定効果（億円）			50	39	30	10	5	5	7	9	7		53					
			合計129億円				合計26億円				合計60億円（※）							

※2025年9月・10月実施の効果は織り込んでいない

業界の冷蔵倉庫稼働状況



出典：一般社団法人 日本冷蔵倉庫協会「主要12都市受寄物庫稼働状況一覧表」を当社で加工

主なIRニュースリリースのご案内

- 「SX銘柄2025」に選定
<https://www.nichirei.co.jp/news/2025/481.html>
- 商品価格一部改定のお知らせ
https://www.nichireifoods.co.jp/news/2025/info_id42975/
- 譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行に関するお知らせ
https://www.nichirei.co.jp/ir/news/2025/t_in204.html
- ESG投資の代表的指数「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に23年連続で選定
<https://www.nichirei.co.jp/news/2025/484.html>
- ニチレイフーズ 2025年秋季新商品・リニューアル商品のご案内 全62品がラインアップ
https://www.nichireifoods.co.jp/news/2025/info_id43021/
- マレーシア NL Litt Tatt Group Sdn. Bhd. 連結子会社化の手続き完了に関するお知らせ
<https://nichirei-logi.co.jp/news/2025/20250728.html>
- 特定子会社（孫会社）の異動に関するお知らせ
https://www.nichirei.co.jp/ir/news/2025/t_in206.html

おいしい瞬間を届けたい



三ツ星プレート®
回鍋肉 & 麻婆麺



香ばし炒めの濃厚味噌ラーメン



everyONE meal
スパイス香るチリコンカンのショートパスタ

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。